

ダイアボンド No.1880A

ダイアボンドNo.1880Aは、高い接着力と耐油性に優れ、軟質ビニルフィルムの接着に最適なニトリルゴム系接着剤で、ダイアボンドNo.1880の低臭気・淡色タイプです。

§ 特長

1. 接着力が高く、初期接着性に優れます。
2. 耐油性，耐水性，耐老化性に優れます。
3. 軟質ビニルの耐可塑剤移行が良好です。
4. ニトリルゴム系の接着剤としては、低臭気で淡色です。

§ 用途

1. 軟質ビニルフィルム対金属の接着
2. 耐油性を必要とする材料の接着
3. その他 木材，繊維，石材，ゴム，皮革の接着

☆ 被着材の組み合わせによっては、接着しにくいものがありますので、試験した上でご使用下さい。

§ 一般性状

主 成 分		ニトリルゴム
外 観		淡褐色
不 揮 発 分 (%)		31 ± 2
粘 度 (mPa·s)	at20℃	2,000 ~ 7,000
指触乾燥時間 (分)	at20℃	2 ~ 4
粘着保持時間 (分)	at20℃	10 ~ 20
保 証 期 間 (月)	at25℃	6
引 火 点 (℃)		-5
発 火 点 (℃)		516

§ 使用方法

1. 前処理 被着材表面の水分やゴミ，油などを除去し，汚れのないよう清浄にします。
2. 塗布方法 刷毛などで被着材の両方に接着剤を均一に塗布します。
塗布量は，片面当り 150～250 g/m² (両面で 300～500 g/m²) 塗布して下さい。
3. はり合せ 常温にて 5～10 分間乾燥してからはり合せます。
4. 加 圧 はり合せ後，充分に加圧して接着します。

§ 接着性能

1. 接着強さ

はく離強さ (N/25mm)

		鋼板/S・PVC	S・PVC/S	Can/鋼板
常 態	1 時間	15	18	17
	24 時間	35	38	38
	48 時間	51	54	46
	96 時間	62	66	48
熱老化	70℃・96 時間	65	68	50
耐 熱	80℃	10	12	10
耐 寒	-20℃	60	62	48
耐 水	48 時間	40	35	36

S・PVC：軟質塩化ビニルシート S：スレート板 Can：綿帆布

試験方法：JIS K 6854 に準ずる

2. 軟化温度

1 日 目	60 ～ 65 °C
5 日 目	65 ～ 75 °C
10 日 目	70 ～ 80 °C

被着材：綿帆布相互

試験方法：JIS K 6833 に準ずる

§ 注意事項

- ・ 保管中に分離することがありますので、使用前に全体が均一な層になるまで攪拌してご使用下さい。
- ・ 火気のあるところでは使用しないで下さい。
- ・ 取扱い作業場所には、局所排気装置を設けて下さい。
- ・ 取扱い作業中には、換気をよくし、蒸気を吸い込まないようにして下さい。
- ・ 取扱い中は、できるだけ皮膚にふれないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスク、保護手袋、前掛けなどを着用して下さい。
- ・ 火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いて下さい。
- ・ 目に入った場合には、多量の水で洗い、できるだけはやく医師の診察を受けて下さい。
- ・ 蒸気、ガスなどを吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診察を受けて下さい。
- ・ 誤って飲み込んだ場合には、水で口の中をよく洗い、ただちに医師の診察を受けて下さい。
- ・ 皮膚に付着した場合は、すぐに付着物をふき取り、水と石けんでよく洗って下さい。
- ・ 容器を密閉して、直射日光の当たらない場所で、5℃～35℃で保管して下さい。
- ・ 器具の洗浄にはメチルエチルケトンをご使用下さい。
- ・ 容器からこぼれた場合には、布で拭きとって、密閉できる容器に回収して下さい。
- ・ 空容器は、中身を使いきってから廃棄して下さい。
- ・ 接着剤を廃棄する場合、産業廃棄物の許可を受けた専門業者に委託して下さい。
- ・ 子供の手の届かないところに保管して下さい。
- ・ 本来の用途以外には使用しないで下さい。
- ・ 消防法：第四類第一石油類（非水溶性液体）（危険等級Ⅱ）に該当

☆ 上記の接着性能データは、当社実験室で得られた値ですので、接着剤選定の目安としてご使用下さい。環境条件や作業条件などにより、得られる値も変化しますので、より正確な接着性能を求めたい場合は、それぞれの用途に合わせて確認試験されることをお勧めします。